

“地域”で生ききる /

Gumma CMS

## 群馬県地域密着型サービス 連絡協議会・会報

第23号・・・平成25年3月発行

# あんじゃー ない!



あなたは認知症になると思いますか…？  
ナント 9割が手を挙げる時代になりました。

会長 井上謙一

厚生労働省の公表によると、2012年9月現在で

- ・65歳以上（高齢者・第1号被保険者）の数は3000万人を超えた（高齢化率25%）。このうち要介護（要支援）認定者数は550万人（高齢者の18%）また認知症高齢者が300万人（高齢者の10%）を超えた。
- ・介護費用は現在8.9兆円で2025年には20兆円、医療費用は現在40兆円で2025年には60兆円という推計である。
- ・高齢者世帯のうち一人暮らし・夫婦二人暮らし世帯は60%以上を占める。
- ・介護の希望は本人、家族とも条件付きながら在宅での生活希望が80%に達する。
- ・2012年から団塊世代（昭和22年生まれ）が高齢者となる。

要するに日本は世界で類を見ない超高齢社会に突入しましたが、莫大な借金をこれ以上増やさずに、認知症の人と一人暮らしの人の大多数が望む、尊厳ある在宅生活をどうしたら継続できるか、そのシステムをどう創れるのかを問われています。その一歩としては、日本人全員が認知症になるかもしれない「当事者」であることを理解することです。

認知症サポーターの数は当初目標の100万人を大きく超え、2012年の12月末で390万人となり、群馬県においては6万5千人、高崎市の1万9千人をトップに、県内全市町村も講座を実施するようになりました。認知症サポーター講座受講者の意識が、数年前と今とで決定的に変わったと思われることは、自分も認知症になるかも、という「当事者意識」です。

徘徊する人を見かけた場合、以前なら「関わりたくない」「危険」「迷惑」「早く施設に入れて」の声が多く聞かれましたが、今は「明日は我が身」「できることを手伝いたい」「みんなで温かく見守りたい」という意見がアンケートでも多数見られるようになりました。まさに「認知症の理解が広がり、当事者意識が顕著」になった証拠です。住民同士の適切な関わりや介入が早期から行われれば、軽度の認知症はもちろん、少し進んだ認知症の人でも専門職の手を借りなくても、その人らしく地域で生きていけるのです。

私たち地域密着型サービスの事業所は専門職として、地域の認知症セーフティネットとして存在する意義をあらためて考えてもいいはず。先進県の事例のように、地域社会に対してのワンストップ相談拠点、地域包括支援センターのランチ役としての役割を発揮し、地域になくてはならない社会資源となることこそ、当会の重要な目標であると思います。



第10回  
小規模多機能  
グループホーム大会

平成24年10月23日  
前橋市総合福祉会館にて開催しました

講演 午前の部・・・  
有限会社早川プランニング  
早川浩士さん  
基調講演「介護職員のプロとアマの違い」



プロの基本姿勢は「あせらず あおらず あきらめず」

プロは「出来る方法を考える」

アマは「出来ない理由が先に出る」



↑ 試験的に展示コーナーを設けました。



● 講演を聞いて・・・

- ・今までの人生で培ってきたものが洗礼されているか、問われているような気がしました。…感動は薄れても、情熱は薄れてはいけません。満足したらそこで止まってしまうものだと再認識しました。
- ・介護のプロである事に自信と誇りを持ち、心からの介護をしていきたいと思いました。

事例発表 午後の部・・・

「本人らしさ・個別ケア」「地域・生活の工夫」「ターミナルケア」「家族支援」など4つの分科会に分かれ、介護職員による計42の事例発表が行われました。



● 出席した職員の感想より抜粋・・・

自分のホームにもいる、そっくりな方の困難な事例がありました。結果として成功例ではありませんでしたが、その取り組みの中には見習うべきヒントがたくさんありました。アプローチの仕方は違いますが、同じように苦労している仲間がいることを心強く感じました。これからも色々な問題に遭遇すると思いますが、他のホーム同様、一致団結して乗り越えていきたいです。



# 地域包括ケア シンポジウム

平成24年12月7日  
高崎ビューホテルにて開催しました

今年度の管理者等研修は会員事業所だけでなく、地域包括支援センター始め、県、市町村、社会福祉協議会、居宅介護支援事業所等のケアマネージャーさん等…行政や関係者の方々に広くお声掛けをし、行政その他144名、会員事業者159名の方にご出席いただきました。

●基調講演「地域包括ケアと地域密着型サービスの果たすべき役割」  
厚生労働省 老健局振興課 課長補佐 稲葉好晴 氏

●パネルディスカッション：「地域包括ケアの実現に向けた具体的取り組み」  
コーディネーター  
(財)さわやか福祉財団 政策提言プロジェクトリーダー 加藤 昌之 氏  
パネリスト

厚生労働省	老健局振興課	課長補佐 稲葉 好晴 氏
山梨県北杜市	市民部介護支援課	課長 唐木 美代子 氏
石川県加賀市	医療提供体制推進室	専門官 水井 勇一 氏
熊本県山鹿市	市民福祉部 介護保険課	審議員 佐藤 アキ 氏



- ・基調講演では「地域包括ケアと地域密着型サービスの果たすべき役割」と題して、介護保険制度をとりまく状況や、なぜ地域包括ケアが必要なのか、これからの課題などについてご講演いただきました。
- ・パネルディスカッションでは先駆的に地域包括ケアに取り組んでいる3市町村の担当者の方をお招きし、地域包括ケア実現に向けて、地域の仕組み作りや活動状況、今後の視点などをお話いただきました。



懇親会にもたくさんの方にご参加いただきました。積極的に名刺交換をされたり、情報や意見交換をしている姿が見られました。和やかな雰囲気の中で大変有意義な時間となりました。参加された皆さま、お疲れさまでした。

## 小規模多機能 運営部

部長・高橋 昭

11月22日に全県小規模多機能意見交換会を開催しました。小規模多機能だけの意見交換会は久方ぶりだったせいか大勢の参加者で大盛況のうちに開催できました。25名登録者の確保が難しいため経営的に運営が難しいと言われている小規模多機能、悩みは尽きず・・・・。そんな中でも、厚生労働省が目指す中学校区単位の地域包括ケアシステムの考え方や、サテライト型を出すための詳細な学習。さらに25名確保に成功している事業所のマル秘の手の内を思いっきり公開するという意見交換会でした。

地域包括ケアシステムの中心的存在に小規模多機能型居宅介護を据えている厚生労働省。だからこそサテライト型を2か所も出しているという夢のような改正。チャンス到来！千歳一隅の追い風を生かそうと中身の濃い会合でした。先日、今後の認知症施策の方向性について発表された「オレンジプラン」の概要と介護事業に期待されるものという演題で厚労省の役人の講演を聞きに行きましたが、ここでも小規模多機能型居宅介護に期待する話をされておりました。ますます小規模多機能の果たす役割は重要であると、強く確信を持って帰って来た次第です。嬉しい限りです。これからも自信と誇りを持って仕事に邁進していきたいものです。

## 研修部

部長・伊藤 慎一

平成24年度の研修部活動についてご報告致します。研修終了後にアンケート調査を行っておりますが、人材育成をテーマにした研修を今後も継続して欲しいとの要望が強く、講師に人材育成コンサルタントの増田勝之先生を迎え、今年度も実施してきました。7月16・17日群馬県勤労福祉センターにて新任者1日研修を開催致しました。それぞれの開催日で33名、38名の参加をいただき、社会人としてのルールとマナー、職業人としての心得について学びました。

また2月14・15日には45名の参加をいただき、同会場でリーダー研修を開催。リーダーの役割、コミュニケーションスキル磨き、職場づくりの仕方について学びました。どちらの研修も終了後のアンケート結果から、連協としてこれらの研修を実施していく必要性について、95%以上の人から必要であるとのお答えをいただきました。この結果からも、来年度は引き続きこれらの働き手を育てるための研修を行なっていくと共に、地域密着型サービスに新たな働き手を呼び込むための研修事業を実施していく予定であります。



## グループホーム 運営部

部長・恩田 初男

グループホーム運営部では9月に「運営に関するアンケート」を行いました。ご協力ありがとうございました。連協の全会員事業所の34%にあたる93事業所（GH63・小規模24・不明6）から回答がありました。課題として多い順で ①「介護人材の確保」 ②「利用者の確保」 ③「人材育成の取組」の三項目が突出しています。

①「介護人材の確保」は34事業所（回答の36%）で課題とされています。うちGHの14事業所が一番の課題としており、GHでの職員不足が目立っています。今後さらに介護人材不足が予想されることから、連協として何らかの改善策の検討が必要と思われます。

②「利用者の確保」では35事業所で課題とし、うち一番の課題で小規模多機能では7事業所でした。小規模の回答は24事業所でしたので、約3割となっています。小規模多機能の浸透を図ることが必要です。

③「人材育成の取組」では33事業所で課題としています。連協の研修もありますが職員不足と連動して、職員を研修に出す時間の確保が課題と思われます。

以上の結果はある程度予想は出来ましたが、この結果を参考にし応えられるよう活動したいと思います。



中北部ブロックでは、平成24年9月21日（金）前橋市中央公民館（元気プラザ）にて「介護職員研修制度が変わる！！」という演題で（財）介護労働安定センターの方に今後の介護福祉士受験要件変更の内容について説明をしていただきました。会員施設28名の職員に参加していただき、介護福祉士受験が困難になることを各職場へ情報伝達していただけたと思います。また、意見交換会では職場の悩みや課題等意見交換ができ、とても有意義な時間となりました。

11月～2月頃を予定しておりました交換研修・見学研修ですが、ノロウイルスやインフルエンザ等の流行により、なるべく菌を持ち込まないという点から検討した結果、自粛させていただくこととなりました。この場をお借りしましてご報告をさせていただきます。来年度からは感染症の流行が少ない時期に研修を開催したいと考えております。これからも介護職員のレベルアップに努めていきたいと思っております。

今年度、西部ブロックでは7月にブロック定例会（意見交換会）を行いました。その際「介護労働安定センター」の木村様に、平成27年度から変更になる介護福祉士資格取得のための実務者研修についてご説明いただきました。ブロック研修としては、7月に救急救命講習、11月に講演会を行いました。講演会では「福島第一原発被災地施設からの報告」と題して、社会福祉法人友愛会の寺島利文様に、災害時における緊急対応やご苦勞の様子、その中で学んだ教訓などのお話をいただきました。避難時の大変なご苦勞のお話や「帰りたくても帰れない」という怒りと悲しみに満ちた訴えに、心打たれ涙される方もおりました。会場では支援のために、障害者施設で製造しているお味噌の販売も行い、多数の方にお買い上げいただきました。今年度も皆さんにいろいろとご協力いただきました。ありがとうございました。



東部ブロックでは、8月20日、21日に普通救命講習を太田市東部消防本部にて実施し、多くの事業所に参加していただきました。また、今年度初めて全事業所にアンケートを実施し、多くの回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。9月18日の意見交換会の際に、少しでも皆様のお役に立てる様にアンケートを再度集計し直し、結果を発表しました。その後グループ討議を行い、問題点や悩んでいる事を発表していただき、有意義な時間となりました。11月9日には、総会の際に大変盛況でありました萬田緑平先生を大泉にお招きし「最期まで目一杯生きる」をテーマにご講演いただき、60名の方にご参加いただきました。前年度1回しか行えなかった、レベルアップ研修を2回行い、多くの事業所の交流が持てたのではないかと考えております。来年度も会員の皆様が少しでもプラスになるような研修を考えて実施していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。



昨年の8月31日のブロック会議にて、意見交換会とブロック研修を実施しました。意見交換会ではグループホームの班から、ご利用者の身体機能の差異が進みケアに多様性が求められるようになった、管理者が営業活動に出られない、外部評価での指摘事項に対して事情を説明したが聞いてもらえなかった、といった内容となりました。特に外部評価については、行政の実地指導との差異がなくなり、外部評価が形骸化してきていると思われる。小規模多機能ホームの班では、指定権者（市町村）によって連泊や配食についての指導内容が異なる、初めてのご利用者は泊りのサービスから開始できない市町村がある、と、指定権者によって介護保険法の解釈が異なることが問題視され、その解釈の根拠が明示される必要があると思われます。

ブロック研修では「初心に帰ろう！認知症と対応の基本」というタイトルで、基礎疾患別に特徴と対応方法の基本についての研修を行いました。

## NHK 放送受信料免除について

ホームの居間などで利用者さんが専用にするために施設が設置しているテレビの放送受信料は全額免除となります。入居や利用している人数などの条件はありますが、グループホーム、小規模多機能ともに免除対象施設となっています。(職員用等の契約は受信料が必要です)

申請は郵送でも受け付けています。詳細はNHKへお問い合わせください。



## 電気火災を予防しよう!

長崎市のグループホームの火災は、リコール対象の加湿器が原因とみられています。電化製品の不具合だけでなく、電気設備機器などによる火災「電気火災」は年々増加しているそうです。そのうちの一つ、トラッキング現象と、今すぐ出来る電気火災の安全対策について、消防署にうかがいました。

トラッキング現象とは?

コンセントとプラグの間に徐々に埃が溜まり、その埃が湿気を呼び、プラグの両極間で火花放電が発生、それが繰り返されることで絶縁状態が悪くなり電機が流れ、生じた抵抗で発熱し発火する現象。毎年多く発生するが、一般的に知られていない傾向にある。洗面所や台所、冷暖房などにより結露の生じやすいところ、ベットの飼っている部屋などは、特に注意が必要。

今すぐ出来る!

### トラッキング現象をはじめとする電気火災の予防対策

- ・定期的に差し込みプラグを抜いて、埃を乾燥布で掃除する。特に家具の裏側に設置されたコンセントは要注意。
- ・長年使用している電気製品は日常的に点検し、異常があれば使用を中止、専門業者に点検や修理を依頼する。
- ・コンセントやテーブルタップ、プラグ、コードが異常に熱くなっている時は使用を中止する。
- ・プラグを差し込んだ時、差し込みが緩いコンセントやテーブルタップは交換する。
- ・機器の使用後はスイッチを切り、コンセントからプラグを抜いておく。
- ・差し込みプラグを抜く時は、コード部分を持って引っ張らない。
- ・コードの上に家具などを置かない。・コードを束ねない。
- ・たこ足配線をしない。



プラグに埃を貯めにくい  
こんな便利用品もあります。  
100円ショップで購入。

Gumma CMS

### 群馬県地域密着型サービス連絡協議会

事務局 〒370-3521 群馬県高崎市棟高町 954-8  
認定NPO法人じゃんけんぽん事業本部内

☎ 027-387-0180

Fax.027-387-0181

e-Mail renkyou@gunmaken-chiiki.net

ホームページ <http://www.gunmaken-chiiki.net>

昼めしの  
あまりの美味さに  
底たたく

GHつどい在住  
中澤サト様の作品です(^^)

募集!

ご利用者や職員の方の作品を募集します!  
ジャンルは問いません。俳句や川柳などはFAXで、書道や絵などの作品は写真を撮ってデータで事務局までお送り下さい。掲載された方には粗品を贈呈します!